二〇二四年三月一六日

幕末の慰霊碑のたつ花堤　せいじ
弁当屋土堤の桜を知り尽くす　よう子
福寿草ほぐれそめたる朝かな　む　べ
一鳥も潜れぬほどに花万朶　うつぎ
哺乳瓶こくこく吸ふて花下に笑む　あひる
土手埋む河津桜の帳めく　うつぎ
咲き満ちて簪めける花馬酔木　む　べ
みどり児が花の宴の主役かな　あひる
百相の瘤の榎の芽吹きけり　澄　子
激つ瀬のしぶきて春日弾きけり　康　子
熊笹の群落に落つ椿かな　かえる
句友らと久闊を叙す花の下　はく子
ゆくりなく小さき釈迦堂花堤　ぽんこ
古刹なる松の根方に福寿草　わかば
湧水の揺らぐにまかせ蝌蚪の紐　康　子
松毬転がるままに芝青む　澄　子
城山に見下ろす淀の花堤　うつぎ
廃線のホームのゆかし初蝶来　なつき

定例WEB句会みのる選
二〇二四年三月一六日